

「飛び出し人形」寄贈

県中小企業
経営者協会が

15体を長門市に

県中小企業経営者協会（荻野利浩代表理事）はこのほど、子ども

もの飛び出し事故へ注意を呼びかける交通安全全標識「飛び出し人形」250体を製作。そのうち15体が9月2日、長門市に寄贈された。

ト。道路に走り出てくる子どもが片手を大きくかざしているポーズを青や赤などカラフルな色づかいで描き、約130センチの支柱（鉄製）に設置している。人形（平面）は耐久性のあるPP板（ポリプロピレン）で作られており、表裏で男の子と女の子のイラストに分かれるリバーシブルタイプ。支柱の土台は重いブロックが固定でき

るなど、風雨に耐えられる工夫も施されている。

同協会では今年11月に設立30周年を迎えることから、地域貢献の一環として何かできる事はないか―を協議。子どもたちが安心安全に生活できる環境づくりのため交通安全標識を製造し、県内すべての教育委員会に贈ることを決めた。

この日は同協会の副会長理事で県北中経協の藤田貴史会長（フジミツ副会長）と同理事で県北中経協の岡藤智加子副会長（ホテル楊貴館社長）の2人が

市役所を訪れ、出迎えた松浦教育長に飛び出し人形の目録を贈呈。藤田会長は「子どもた



〈交通安全標識の目録を渡す藤田会長と岡藤副会長〉

ちは地域の宝。この標識を道路に設置して子どもの安心安全に役立ててほしい」と話し、岡藤副会長は「子どもだけでなく、これを見た車の方も常に安全意识を持ってほしい」と要望した。

市教委によると贈られた「飛び出し人形」15体は市内11の小学校に1〜2体ずつ配分。学校周辺で車の交通量が多い所やカーブなどで見通しが悪い場所などに設置し、児童の登下校時の安全を見守る。人形は各学校が責任を持って管理するという。松浦教育長は「人

形は高さが子どもの視線になっており、視覚に訴えるキャラクターでドライバーの目に入りやすい。これを見て交通安全が強く意識されるのでは。今後も子どもの安全に努めていきたい」と語った。